

身体のかたちをこえて：アート・倫理・いのちと死 展覧会 @ 広島大学

- 本展では、アンナ・スワウオフスカによる選りすぐりの作品を紹介し、彼女の国際的なアーティスト活動における主要プロジェクトを取り上げます。



Photo: Anna Suwalowska in her studio in Camden, London

アンナ・スワウオフスカ (Anna Suwalowska)

- 英国ロンドンを拠点とするポーランド人アーティストで、2011年にキャンバーウェル・カレッジ・オブ・アーツ、2013年にロイヤル・カレッジ・オブ・アートを卒業。アート・医学・科学の交点に位置する独自の視点が、作品に反映されています。潜在意識、自己表現、人間の心への長期的な探究に根差した実践から、心理的風景に関する継続的な研究を展開しています。
- 彼女の絵画は想像力に富む物語世界を形成し、異分野の研究者や科学者との学際的なコラボレーションの土台ともなっています。アンナの作品はヨーロッパ、アフリカ、アジア、北米と、国際的に展示されてきました。高い評価を受けた個展「身体を超えて：検死の肖像」(Beyond the Body: A Portrait of Autopsy) (2020-2023)は、死をめぐる文化的タブーに挑み、世界各地の医療機関や文化施設で公開されました。本展は、医療・医学研究を支援するロンドンの財団ウェルカム・トラスト(Wellcome Trust)が運営する「健康の文化・環境に関するウェルカム・センター」(Wellcome Center for Cultures and Environments of Health: WCCEH)が世界保健機関(WHO)と提携して選出したもので、デンマークのUNシティで公開されました。そこでは市民参画と異文化間対話への貢献が評価され、国際的な賞を受賞しました。
- アンナは「故人へのオマージュ」(Homage to the Departed)(2023-2024)のアーティストリック・ディレクターとして、南アフリカで芸術家・考古学者・社会学者からなる国際チームを率い、博物館が収蔵している人骨標本の展示に関する倫理を調査しました。プロジェクトは、ジョンズ・ホプキンス大学バーマン生命倫理研究所(アメリカ)とキンバリーのマクレガー博物館の展示会として結実しました。
- 彼女はオックスフォード大学、エクセター大学、ケープタウン大学などの機関と定期的にコラボレーションしています。身元不明遺体を扱うプロジェクト「Nobodies」(2024-2025年)は、死後のケアに関する連続講義の一環としてアントワープ大学で展示されました。

アンナの作品は台湾、ノルウェー、香港でも発表されており、現代シュルレアリスム展「Dreamscapes」の共同キュレーターも務めています。



(www.annasuwalowska.com)

Beyond Physical Form プラットフォーム



- アンナ・スワウォフスカは2019年、オックスフォード大学のハリナ・スワウォフスカ博士とともに、芸術・科学・倫理が会う場をつくるべく、**Beyond Physical Form** を設立しました。このプラットフォームを通じて、彼女は博物館の収蔵品や医療史、死に対する文化的アプローチを探究し、意味のある対話の起点としてアートを用いています。
- **Beyond Physical Form** は国際的なプログラムへと発展し、ヨーロッパ、アフリカ、アジア各地で展覧会・研究協働・市民参画イベントを展開しています。直近では2025年3月、オックスフォードのピットリバース博物館で学際的なワークショップを主導し、アーティスト・人類学者・医療専門職を招いて、人骨遺体の倫理的ケアについて考察を深めました。核にあるのは、きわめて人間的な問いかけです。私たちは死者に何を負っているのか。文化的信念は、心・身体・魂の理解をいかに形づくるのか。協働と創造的な交流を通じて、**Beyond Physical Form** は省察、共感、そして異文化理解のための場を生み出しています。



(www.beyondphysicalform.com)

本展で紹介するプロジェクト

- **Project 1 身体を超えて：検死の肖像 (Beyond the Body: A Portrait of Autopsy) (2019-2023)**

「身体を超えて：検死の肖像」では、社会における死後の諸活動をめぐる文化的タブーを検証し、医療従事者、宗教指導者、一般の人々による対話の機会を設けました。本プロジェクトは、死後処置に関わる専門家の語りに着想を得て、異なる文化を横断し、遺体の検査をめぐる倫理的ジレンマを探ります。作品は多様な視点を提示します。例えば、死因を知る生者の権利が、故人が秘密を守る権利に勝るのかと問い直す病理医。死の段階と宇宙の本質を形作る「五大」について語る仏教僧。子どもの身体を極力傷つけない解剖法を紹介し、遺族との繊細な対話について語る科学者。これらの声を通して、本プロジェクトは尊厳、信仰体系、医療行為についての省察を促します。

- **Project 2 「変容」 (Transformation) (2024)**

「変容」は死後の世界を主題とする連作です。連想を用いながら、スワウオフスカは象徴と意味を重ね、鑑賞者が無意識を探り、隠れた感情の物語を見いだすことを促します。

- **Project 3 「心理的風景」 (Psychological Landscape) (2019-2025)**

本シリーズは、心理、記憶、知覚を探求し、無意識がいかに現実を形作っているかを考察します。自動現象(Automatism)や博物館資料から影響を受けたスワウオフスカは、内的な感情の構造を露わにするレイヤー状の構成を生み出します。死、メンタルヘルス、無意識といったテーマに根差しつつ、身体と人間の脆さをめぐる文化的タブーに挑みます。

- **Project 4 「名もなき者たち／眠り」 (The Nobodies / Sleeping) (2024)**

「名もなき者たち」は、社会の周縁で見えないままにいる人々に焦点を当てます。誰にも気づかれず、身元も知られずに亡くなった人々に対して、私たちが負う倫理的責任を問いかける作品です。本プロジェクトは、鑑賞者を死、尊厳、記憶に対する社会の受け止め方に直面させ、生と死が人間にとって深く刻み込まれた不可解な謎であることを浮き彫りにします。

上記のプロジェクトに関与した協力機関：

- オックスフォード大学 (英国)
- ピットリヴァース博物館 (オックスフォード、英国)
- ジョンズ・ホプキンス大学 バーマン生命倫理学研究所 (ボルチモア、米国)
- ケープタウン大学 病理学学習センター (南アフリカ)
- ケープタウン大学 (南アフリカ)
- アントワープ大学 (ベルギー)
- マクレガー博物館 (キンバリー、南アフリカ)
- 健康の文化・環境に関するウェルカム・センター (エクセター大学、英国)
- アントワープ熱帯医学研究所 (ベルギー)
- シンガポール国立大学 (シンガポール)
- クワズール・ナタール博物館 (南アフリカ)
- クワズール・ナタール大学 (南アフリカ)